

長野県革新懇ニュース

2019 年 11 月号
発行日 11 月 10 日
会 費 2,000 円
購読料 3,000 円 (送料込)
振 替 0510-3-15971

246

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 金田聖治さんインタビュー
- 2 面 1 面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3 面 台風 19 号水害について
革新懇全国交流集会報告、読者の声
- 4 面 「雨よ降れ」「ハンセン病文学」再読 窪島誠一郎さん
映画評論「風をつかまえた少年」内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

検 索



1958 年、北海道生まれ。1999 年に日本キリスト教会神学校を卒業。上田教会に 2015 年春に赴任し、現在にいたる。キリスト教ラジオ放送局 (日本 FEBC) で、2019 年 10 月から毎週水曜夜、2 年間、22 分間×全 104 回の予定で、番組『嘆きに応える神の御言』を担当し、ラジオとインターネットで放送・配信。

戦前に逆戻りさせないために

精一杯、声を上げつつけよう

かねだ せいじ さん
金田 聖治 さん

(日本キリスト教会 上田教会牧師)

被災者の皆さんに
心からお見舞い

冒頭、この度の台風 19 号で被災して心細く不自由な生活を送る皆さんに、亡くなられた方々のご遺族に、心からお見舞いを申し上げます。復興支援や救助に当たっている方々の安全を願っています。路上生活を余儀なくされたホームレスの数多くの人々もまた、邪魔者扱いされることも不当に排除されることもなく、1 日ずつ生き延びて、心安らかに暮らすことができますように。この数年、毎年あちこちでこれまでにない大きな自然災害が起きている。いっどこで厳しい災害が起これば不思議ではない状況です。だからこそ互いに助け合い、支え合おうとする市民の善意の活動が私たちを慰

め、勇気づけています。
為政者にこそタガと
足力セをはめておく

Q 早速ですが、阿部守一知事の護国神社との関わりや記者会見での発言が新聞報道などで取沙汰されていますね？

このことについては、見過ごすことのできない危うい問題があります。知事 1 期目の 2011 年から県護国神社を支援する「崇敬者会」の会長を務めつづけ、寄付を募る趣意書にも名を連ねているからです。そのことについて、「私人」として、一個人としての活動だ」と言い張り続けているからです。「私的行為だと言っているが県民の皆さんは必ずしもそう受け取ってはいない」と問いたされ、けれど、「憲法を尊重する立場から、私人における信教の自由は保障されねばいけない」と答弁しています。

法第 20 条に定められた願いです。信仰や諸宗教から分離し、それに悪い影響を及ぼさないようにタガと足力セをはめるべき相手は私たち一般民衆ではなく、むしろ国家権力であり、政府や地方行政団体とその首長の日頃のさまざまな言動です。ですから、「信教の自由」が守られ、保障されるためには、公権力を担う人たちがこそが、自分が他の一般の人々の信教の自由を侵害しないようにと自分自身を戒め、よくよく慎んでいる必要があります。そのことを県知事はうつかり忘れておられます。また県議会も、そうした状況を知れば、大きな責任を問われま

キリスト教会の
戦争罪責

Q 戦前、国は神社神道を事実上の国教として位置づけて天皇による支配を正当化し、統治に利用しました。戦死者を「英霊」として祭る靖国神社や各地の護国神社は、軍国主義の精神的な支柱として国民を戦争に駆り立てる役割を担ったわけですが、どのようにお考えですか？

町村というすべての公権力、地方行政団体と神道の関係を断ち切る意味があったことを決して見落とすわけにはいきません。
わたしたちキリスト教会は胸を張ってこれを言うわけはありません。とても恥ずかしいし、申し訳ないので、これを言わざるを得ません。第 2 次世界大戦のとき、「仏教、神道、キリスト教はともどもに天皇陛下の政治をお支えし、国の繁栄のために尽くしなさい」(1912 年、三教会同)と命じられました。キリスト教会は、「これedyou やく非国民扱いされずに済む。お国のために尽くそう」と大喜びしました。「軍隊や特高警察に脅かされて、嫌々従った」と聞かされてきましたけれど、本音のところは、そうした喜びや期待も大きかったのです。「聖書の神以外の何者にも従わない。たとえ王や支配者の命令でも信仰の道に背くならば決して屈服しない」と聖書から教えられていました。けれど、それは棚上げされて、国家の誤りや侵略行為に向き合うことを私たちは避けてきました。お力ミに従う、無害で行儀の良いシモジモのものたちでありたいと切望したからです。そうでなければ何をされるかわからないと恐れたからです。
そのようにして国民儀礼の名のもとに天皇を拝み、神社参拝を行うという偶像礼拝の罪を犯しました。そればかりではなく、朝鮮、台湾、「満州」(中国東北部)の諸教会に偶像崇拝を強要し、自分たちの罪を認めず、その苦しみと痛みを見過ごしにし、放置

【2 面に続く】